

青森田中学園報

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
中央文化保育園
浦町保育園



特集：地域で活躍する学生

椿
撮 影：青森中央学院大学3年 CHINDAKUL SUKIJ


vol.85

目次

特集：地域で活躍する学生

2

青森中央学院大学

6

- ・全国大学就職率ランキング3位
- ・国際インターンシップ活動への支援
- ・図書館カルチャー講座「自伝を書こう」
- ・復興支援コンサート
- ・今年も「世代の架け橋講座」を開催
- ・国際交流センターより
- ・サークル・ライフ
- ・ゼミ探訪
- ・私の1冊
- ・OB通信
- ・学生記者発

青森中央短期大学

10

- ・開花式
- ・創立記念運動会
- ・リメディアル講座
- ・青森中央短期大学卒業生による「こぎん刺し」展示
- ・JFA公認キッズリーダー養成講習会
- ・食育フェスタ
- ・「しっとりもっちり東青の米粉スイーツ創出事業」への取組
- ・先生の自分史
- ・研究室を訪ねて
- ・読んで欲しいこの1冊
- ・卒業生も活躍しています
- ・学生記者発

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園

14

- ・合宿保育
- ・ねぶた出陣
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本
- ・卒園児頑張っています

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校

16

- ・医療事務コース講話聴講
- ・経理事務金融学習会
- ・文化公開講座
- ・期間限定ショップOPEN
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

翔麗祭

18

インフォメーション

19

“地域マネジメント研究所による国際産直プロジェクトについて”

地域マネジメント研究所では、地域型商社の可能性について取り組んでいます。国際的な産直品の流通ビジネスモデルとして、タイからマハチャノ・マンゴーの直接買い付け販売を実施し、今年で3年目となります。

本プロジェクトにて取り扱われるマハチャノ・マンゴーは、2006年11月、タイ国プミポン国王陛下の即位60周年を記念して日本への輸入が初めて解禁された品種であり、タイ国内でもあまり流通のない希少品種です。

その果肉は、平均15～17度の糖度とほのかな桃の香りを湛え、非常に濃厚且つ芳醇な味わいを楽しめる事からも、日本国内産の高級品種に何ら見劣りしない商品として年々好評をいただいております。直接買い付けにより実現する低価格と、農園提携による生産から出荷までの徹底した管理による安全品質を確保し、販路拡大とリピーターの獲得を追求してまいりました。また、多くの教職員の皆様からのご注文ご支援に厚くお礼申し上げます。

本年度の新たな取り組みとして、留学生に加え新入生を中心とした経営法学部生のプロジェクトへの全面的な参画を試行しました。輸入計画から通関へのプロセス、流通、品質管理、顧客対応、損益計算までの、商品輸入から市場販売へ至るまでのプロセスを実際に体験する事で、参画学生が大きな経験を得る機会を創出することができました。

参画した学生は、“組織”としてシミュレートされたグループ内で、それぞれの役割を責任をもって担当すること、また、お互いを補うことで、グループワークの有効性と、問題点への対処の仕方を学ぶ機会を得ることができました。

プロジェクトへ参画した学生からは「モノの流過程を知ることで、何の気なしに手に取る商品ひとつを販売するまでの労力が身に沁みてわかった。」との声が聞かれました。

およそ一箇月にわたるプロジェクトは、学生達の真摯な取り組みもあり、最終的に昨年度比較2倍量となる約2.3トンを入力し、完売することができました。

本研究所では、今後とも“青森発”のマハチャノ・マンゴー・ブランド化のほか、地域振興を要とした地域型商社の研究を断続してまいりたいと思います。

(学習研究支援課 古山 正英)



“本に世界を旅させる”

サテライトキャンパスが、青森県初となる「ブッククロッシング公式ゾーン」を開設した。ブッククロッシングとは、本を愛する人たちによる「本に世界を旅させる」活動で、青森中央学院大学では学生達によって活動が展開されている。その1人、齋藤景一君に、この取組について紹介してもらった。

僕は今、ブッククロッシングという活動をしています。ブッククロッシングと聞いて、どのような活動か答えられる人はほとんどいないと思います。僕も全く知りませんでした。ブッククロッシングは、アメリカで始まった活動です。自分が面白いと思った本にID番号を記入したステッカーを貼り、直接友達に渡したり、公共の場所に置いたりして、新たな読み手に託します。本を置く場所は、ブッククロッシング・ゾーンとして登録されたスペースですが、本国アメリカでは公園や駅のベンチなどに置いたりもされているそうです。また、本を持ち帰るのは無料ですが、読んだ人はパソコンを使い、公式サイトに本を見つけた場所や読んだ感想を入力することになっています。こうすることで、ID番号を頼りに自分が提供（リリース）した本の状況を見ることができます。現在、世界中で88万人以上の人達がこの活動を行っています。

僕がこの活動を始めようとしたきっかけは、入学後に1年生の有志が集まった時でした。何かおもしろい活動はないか、と皆で探す中でこの活動を知り、興味が湧きました。なぜブッククロッシングに興味を湧かしたかというと、この活動を通して、より多くの人々が本に接する機会が増えていくという点、そして、本を通じて人と人とのコミュニケーションがアナログ的に成り立つモデルであるというところに惹かれたからです。また、インターネットを使用して気軽に参加できることや、普段本屋などで自分が手にしない分野の本との出会いが増え、読書の幅が広がるのではないかと、思ったのも理由の一つです。本学が青森県では初の公式ゾーンになったことで、これから青森県でこの活動が広まってくれれば嬉しいなと思っています。

(青森中央学院大学1年 齋藤景一)



“福島の子どもたち、家族の笑顔を支援する”

青森県では東日本大震災に伴う福島原発事故の影響により屋外での活動を控えることを余儀なくされている福島県の児童、生徒及びその家族に対し、7月22日～8月20日まで青森県の豊富な自然環境や文化施設を活用した受け入れ行事、「ふくしまキッズin青森2012」を昨年に引き続き行った。白神エリア、下北半島エリア、十和田・奥入瀬エリアの三か所で開催した。

この試みへの協力活動の一環として青森中央学院大学・青森中央短期大学の学生50名が、連携協定を結んでいる十和田市の十和田湖畔地区で8月11日から20日まで実施された「十和田・奥入瀬サマーキッズキャンパス」のボランティアとして参加した。学生達は、十和田市役所、青森県庁、地域の様々な団体の手伝い、体育館やプールでのスポーツ支援、宿題や自由研究の学習支援を中心として様々な体験活動を行った。また、十和田湖畔でのキャンプ、駒っこランド・カワヨグリーン牧場へのバス遠足、ラジオ体操等の様々なプログラムの参加や、全体運営スタッフの手伝い等、積極的に活動した。



“青森中央短期大学食物栄養学科の学生による「地産地消弁当」作成への取組”

今年5月、青森県農林水産部総合販売戦略課より、産学官協同の取り組みとして、学生が作成した「地産地消」をテーマとした弁当を販売するという企画の提案があり、青森中央短期大学食物栄養学科で参加の意向を示した。6月には参加企業がイトーヨーカ堂に決まり、三者による第1回打ち合わせが行われた。そして9/5～9の5日間、イトーヨーカ堂青森店舗にて開催の「地産地消フェア」で限定販売する弁当の献立を、本学学生が担当することとなった。スケジュールは、7月中に献立を完成させる→イトーヨーカ堂での検討→8月中旬に献立決定→学生がイラストなどの媒体を作成→9月販売、という流れである。早速翌日より参加する学生を募り、1年生4チーム（17人）、2年生3チーム（12人）が集まった。1カ月弱で献立の作成・試作・完成を目指すという厳しいスケジュールの中、学生達は試作に向け献立作成や発注、また、同時に献立をイラストにしてイメージを具体化させていった。

学生が考えた献立のテーマは「青森らしさのあるヘルシーな弁当」である。ターゲットはイトーヨーカ堂の女性購買層を想定した。青森らしさを出すために、①青森が連想できる食材を使う、②青森の郷土料理を使用する、の2点に注目した。また、ヘルシーという点は、①野菜を多く使う、②エネルギーを抑える、ということでクリアした。その他、①味が想像できる料理を入れる、②新しさを加える、などが提案され、それらを踏まえた献立が試作された。ホタテの炊き込みご飯、若生おにぎり、長芋コロケ、いかとホタテのトマトソース煮、塩麴の鶏肉ロール、生姜みそおでん、イカメンチ、ホタテのから揚げ、子和え、洋風たまごみそ、きんぴらごぼう、ナスのしそ巻き、ほうれん草の胡麻和えなど、品数にすると20以上もの料理が提案された。試食後に挙げられた改善点を基に材料や調味料の種類や分量を変更すると同時に、ヨーカ堂に対するプレゼンテーション用の料理のイラスト、アピールポイントを作成した。2回の打ち合わせとその後の試食会を経て、学生提案料理を巧みに組み合わせた「まるごと青森弁当」が完成した。

続いて学生達は弁当完成後も弁当の掛け紙に使用するイラストおよび1つ1つの料理を自分たちの言葉でPRする媒体作りに取り組んだ。この媒体は本学でのPRポスターやチラシ、売り場の看板の一部、9/4の知事への報告の際のチラシや手作りエプロンに活用された。フェア期間中、イトーヨーカ堂青森店において販売初日の9/5、そして9/8に学生自身による弁当のPRを行った。初日は夕方を待たずに県内4店舗とも売り切れ、その後も順調な売り上げとなった。学生は、自分たちが作った弁当が形になり、作成した媒体が多くの人の目に触れ、活用されていることに、大きな自信を得たようである。

短期間で、チームで取り組み連携を取りながら1つのことを完成させるという結果を残した姿を目のあたりにし、学生には多くの可能性が秘められていることを改めて感じた。

(食物栄養学科助教 浜中 幸美)



“大連国際友好都市青少年アートフェスティバル”参加

9月9日、中国大連市で開催された「大連国際友好都市青少年アートフェスティバル」に青森中央文化専門学校が参加した。日本を含む7カ国12都市の若者達が芸術や芸能を通じて国際交流を深める催しで、青森県代表として、参加した各国の学生たちと共に華麗なファッションショーを披露し、国際交流を行った。

夏休みを利用した企画・演出・衣装制作では、持ち前のチームワークを発揮。「やまとなでしこ」をテーマに伝統衣装の「きもの」を現代風にアレンジした衣装を制作した。ショーでは大連天姿モデル学校の学生13名と本校1年生4名・2年生3名が、制作した20着を披露し、約500人の観客から大きな拍手を受けた。また、フィナーレでは各国の学生が同じ舞台の上から笑顔を振りまいた。

参加学生からは、「色々な国の人に参加し、言葉は通じないが身振りや笑顔は各国共通だと実感した。お別れ会で各国の参加者と楽しく写真撮影したことはとても楽しい思い出」といった感想が聞かれた。大好きな「ファッション」を通じた言葉の壁を越えた国際交流は、自信と成長に繋がった。



“セレクトショップ QT&BT企画部 結成”

青森中央文化専門学校では青森中三・2階（QT&BTランブリング）において、地域のユーザーターゲット開発のための「QT&BT企画部」を結成し、PR部隊として活動している。

職業体験の場としてWEB・携帯サイト、イベント、各種プロジェクト企画立案や実施に携わる。学生たちは1年間の販売戦略をターゲットユーザー視点で企画開発し、新しい販売スタイル確立と就職活動の一環として職業キャリアを磨くことを目標に情報発信をする。活動を通して同世代の女性に口コミを広げ、地域的话题性を盛り上げ集客につなげる意欲を持って臨んでいく。

学生達は9月20日に第2回企画会議を開催し、向中野社長から販売に関する理論・法則・原則のレクチャーを受けた。また、専用HPの解説と説明を受け、ブログ更新を行った。今後QT&BTランブリングのHPにて、オススメ企画やオリジナル企画を随時配信していく予定である。

アドレス <http://qt-bt.me/>



青森中央学院大学

全国大学就職率ランキング3位

週刊エコノミスト8月28日付の記事。2012年度3月卒業生の全国大学学部系統別就職率ランキングに本学がランクインしている。法学系では名古屋大、一橋大に続いて第3位、商・経営系では12位である（この就職率は就業者数÷[卒業生－大学院進学者]×100で計算されるもので、本学ではキャリア支援センターのスタッフの地道な努力により実数が正確に把握されている）。

快挙と言っているのではなかろうか。これは学生の皆さんの日頃の努力、さらに諦めずに果敢に就職活動を行った成果であるとともに、諸先生、諸先輩、職員の皆さん、そして地域の皆さんの日頃のご支援の賜物である。今日自分の能力を磨き生かす仕事を見つけるには、学生の皆さん本人だけではなく、学生の皆さんを取り巻く多くの人との総力戦になっている。今回のランクインはその総力戦の結果である。

皆さんありがとうございます。
（キャリア支援委員長 塩谷 未知）



国際インターンシップ活動への支援

台南にある南台科技大学の学生が、十和田湖畔の観光施設で就業体験する機会を企画・提供し、地域マネジメント研究所がこの活動を支援した。応用日本語学科の学生12名（男性4名、女性8名）が、7月上旬から9月上旬の約2ヶ月間、観光ホテルや湖畔キャンプ場で実際に短期就業した。学生は大学で学んだ日本語に実践的な活動を通じて磨きをかけた。仕事場は真剣勝負の世界であり、急速なコミュニケーション能力の向上にとっては効果的なプログラムである。学生達は十和田湖の職場で働くほか、休日には県内の主要観光地を訪れたり、ねぶた見物などを行い、青森の自然と文化に親しんだ。受入れ機関であるホテル十和田荘やノースビレッジでは、台湾学生を即戦力として扱い、社員と同様の仕事を与えた。両社長の評価は総じて良好であり、若いはずとした感性が職場にも好影響を与えたという。南台科技大学と青森中央学院大学は今後も交流を深め、本学の学生の台湾での国際インターンシップ体験、短期語学研修なども今後の視野に入れている。

図書館カルチャー講座「自伝を書こう」

「自伝（ライフストーリー）を書こう」を5回にわたり実施している。誰もが、その長い人生にドラマを持っている。それを記しておきたいという欲求が湧くのも自然なこと。書くという行為は、何も小説家だけの特権ではなく、私たち一人一人が自由に表現することができるのだということを、この講座を通して思い起こし、表現のテクニックを学ぼうという趣旨である。

その第2回目は、9月7日、寺山修司記念館館長の佐々木英明氏を講師に、「人生に詩情を盛り込もう」と題し、ワークショップ形式で行われた。本講座では、一人一人が人生的一幕をとりあげ、それに詩情を込めて練り上げるという作業を行ない、出来上がった作品に、それぞれが感嘆するという魔法のようなひと時が創出された。

最終回の5回目は、元筑摩書房取締役兼編集部長の宮園功夫氏を迎え、優秀作品の表彰を行う予定である。参加者は随時、受けつけているので、ぜひ、覗かれない。

復興支援コンサート

今年3月に青森中央学院大学で開いたノーベル平和賞受賞者ムハマド・ユヌス博士の講演をきっかけに、青森中央学院大学はソーシャルビジネスの視点で復興支援に取り組んでいる。その活動の一環として7月22日に地域マネジメント研究所があおもりNPOサポートセンターと協働して、「東日本大震災復興支援チャリティーコンサート」を開催した。

当日は天候に恵まれ約100名の方々がコンサートに足を運んだ。コンサートでは、来場者と県内に避難されている被災者が、地元ダンスグループ、本学学生によるねぶた囃子、留学生の民族舞踊と母国料理、被災地・石巻市で支援演奏活動中の弦楽ユニット「アルカナ」による演奏を楽しみ、交流を深めて、思い出になる一日を過ごした。来場者には復興支援グッズを支給した他、入場料の一部は震災義援金として募金に、また、被災者の雇用創出事業に活用されることになっている。

今年も「世代の架け橋公開講座」を開催

地域貢献の一環として平成18年度から取り組んでいる「世代の架け橋公開講座」も6年目を迎えた。この講座は、本学が高等学校及び市町村教育委員会と共催して実施しているものである。

講座の基本的な形は、本学教員や学外からお招きした講師が、高等学校や公民館等で講義し、それを高校生と一般の町民等と一緒に聴講する。その後、講師が講義内容に関連するテーマを提示し、それについて高校生と町民等と一緒に議論し、相互理解を深めることを目指している。今年度は、県立百石高等学校とおいらせ町教育委員会との共催で、去る7月30日と8月1日の2回にわたり開催された。2回の講座内容は、高校側から、「(同校の)食物調理科の生徒を主な参加者とし、統一テーマを『食』に関連したものにした」旨の積極的な提案があり、それにそったものとなった。

第1回目は本学の塩谷未知教授が「食からはじまる一生活、法律、地域」と題して講義した

後、一緒に聴講した高校生と町民合わせて約50名が議論をし、活発な議論をくり広げた。

2回目は、国立教育政策研究所総括研究官の笹井宏益氏が「おいしいものをたくさん食べて幸せになろうー「食」からはじめる地域づくり」のテーマで、単なる講義ではなく、自らファシリテーターを務め、一貫してグループワークを中心に進行した。笹井氏は、これまで北海道大学助教授(当時)を務められた他、その後の海外勤務や、数多くの海外出張の経験をもとに「世界の食」の話などをまじえながら、聴講者をしっかりと引き付けた。また、高校生から町の取組に関する意見が出た機会をとらえ、傍聴していた町役場商工観光課長を突然指名し町の取り組みについて答えさせるなど、まさに「変化に富む、動きのある」講座となった。

この公開講座はこの後、10月19日と11月2日の両日、県立中里高等学校と中泊町教育委員会との共催で実施する。(地域社会活動委員長 高橋 興)

国際交流センターより ～教育機関との支流～

青森南高等学校外国語科

協定校であるタイ・泰日工業大学のサマーキャンプ生14名が、5月9日から29日まで学術交流会館に宿泊しながら、日本語の学習と様々な課外活動に取り組んだ。

課外活動では、5月17日、青森南高等学校外国語科との交流活動が行われ、生徒のみなさんと日本語や英語を使っ
ての意見交換や部活動見学、書道体験などが行われた。



青森明の星中学・高等学校

青森中央学院大学が交流を行っているタイのチェンマイにあるモンフォート学校から校長先生・生徒のみなさん合わせて22名の教育旅行を受け入れ、5月9日、青森明の星中学・高等学校で交流活動を行った。



小グループに分かれて会話をしたり、タイのダンスを披露したりして、楽しい交流活動となった。

青森中央高等学校

7月12日と19日、総合的な学習の時間に中国とベトナムの留学生をゲストティーチャーとして派遣し交流した。今年は1週目にそれぞれの母国紹介、簡単な挨拶を勉強し、2週目には、ベトナムの手遊びや中国の手を使った数字の表し方を教えながら楽しく過ごした。また、留学生と高校生のダンスバトルも行われ、国境を越えて身近な存在として交流することができた。



青森南高等学校「南高祭」

7月21日と22日の両日、「南高祭」の外国語科2年生のイベントの中で、マレーシアとベトナムの留学生が、民族衣装を着て、母国についてスライドで説明したり、歌や民族舞踊を披露した。



サークル・ライフ Vol.4

カタリバサークル

「カタリバ」と聞いて「何を語るの?」と思う人もいるかもしれません。カタリバサークルでは、青森県内の大学生が集まって高校を訪れ、高校生と将来についてアツク語ったり、そのためには何が必要か、具体的に何をすればよいのか等を実際の大学生の体験をもとに考えたり、様々なワークショップを通して今の自分を見つめ直し自己開示していくといった活動をしています。企画を通して刺激を受けたりやる気をもらったりと、自分のスキルアップに繋がります。飲み会が開かれたり、スポーツ大会やお花見等のイベントが盛り沢山で、他大学の学生との交流も盛んです。特に、高校生とのナナメの関係を大切にしています。上下関係ではなく同じ目線であるということです。大学生は共に企画を重ねて絆を深め、高校生とは一期一会の出会いでたくさんのもので得ることができます。学生生活、何か物足りない…なんて物体ない!一緒に学生生活を充実させませんか。(学生記者 柳谷 優衣)

私の1冊

塩谷 未知先生

『決算書がスラスラわかる財務3表一体理解法』

國貞 克則著 (朝日新聞社,2007)

卒業後ビジネスの現場に入ってしまうと、日常的な仕事の流れの中でビジネスの仕組みやお金の流れについて理解することは容易だろう。また理解せざるを得ないはずである。しかし学生時代に企業のおカネの動き、会計について肌感覚で理解するのは困難である。

会計の専門家でない著者が損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書の財務3表と悪戦苦闘する中で生み出されたのが本書。会計を通じて企業の全体把握を容易に行う方法が提示されている。具体的な会社の事業活動を通して財務3表を同時につくり、お金の動きから財務3表の「つながり」を徹底して解説している。

今から数年前の発売当初から本書は実務者の間では評価が高く、何人かの実務者や仲間から本書の推薦を受けたぐらいである。狭い部分を深く理解することも大事な面があるが、ビジネスや会計の全体観を持つのは実務面では有効であることが多い。

ゼミ探訪

Vol.23

丹藤進ゼミ

現在9名で活動している。先生の専門が心理学であることから、心理学に興味を持つ学生が集まった。内容としては、例えば経済学と心理学、法律と心理学など、今まで私たちが学んできた分野に心理学を交えて、その交点に当たる行動経済学やモチベーションの問題、意思決定などについて研究する。前期は、基礎的な部分を学び、後期は、今まで学んだ範囲で興味を抱いた課題について各自取り組み、最終的にゼミでプレゼンする。ここでは伝えることの練習という意味で、まず自分の言葉で精一杯相手に伝える力を身につける事を目的としている。そうしてできたゼミ生のレポートは、「^{ゆきげの}雪解野」として1冊のレポート集に製本される。毎年異なる題材を取り上げ、今年のテーマはフロー問題・幸福-happiness、翔麗祭で教室展示を行い、ゼミで取り組んだ活動の成果を披露した。(学生記者 太田 諭志)



OB 通信

拝啓 青森中央学院大学様

私の勤めている三戸町商工会では、地域の商店、小規模事業所を中心に経営指導を行ったり地域活性化のためのイベント事業を行うことが主な仕事です。

しかし、それ以外にも火災共済や労働保険などの代理所でもあるのでそれらの事務処理、また各商店様の確定申告なども我々職員が行ったりしています。それぞれの商工会によって違いはありますが、三戸では季節事の行事が盛んに行われるので役場と協力して行っております。

三戸でも若い人がおらず、少子高齢化が進んでいる町です。まだまだ分からないことだらけですが、自分に出来ることを探して頑張っていきたいと思えます。

皆さんもこちらに来られる機会がありましたら、ぜひ商工会に顔を出してくださいね。

敬具

経営法学部 11 期生 佐藤 雄真



創立記念祭

今年も青森中央学院大学の創立記念行事として、ドッジボール大会を開催致しました。前日までの天気予報では雨が降ることも予想されましたが、当日は曇り空ではありましたが気温も予想以上に高く、暖かい中で行うことができました。

ドッジボール大会は、各チームが競い合い、非常に白熱した試合の数々を見ることができました。大きな怪我をする人もなく、無事に終えることができたことを嬉しく思います。

また、今年は花田学長のご提案で「学長賞」を設けさせていただき、試合中に最も輝いていた学生に賞を送りました。来年度からも、学生の皆様の親睦を深め、ゼミや友人同士での思い出作りの場として創立記念行事を開催できるよう、そして、より多くの学生に参加していただけるように、学友会一同努めていきたいと思えます。

(学友会会長 成田 菜南穂)



～若者歩き～

Vol.3

皆さん、今年の夏はどうお過ごしでしょうか。青森の夏は一瞬で過ぎるとはいつても、暑さでなかなか寝付けなかったりした夜もあったのではないのでしょうか。また、バーベキューやドライブ等のアウトドアを存分に楽しんだ方もいると思います。今回は、そんな日光を浴びて疲れた体を、ちょっぴり癒してくれる「足湯」をみなさんにご紹介します。

1つめはJR浅虫温泉駅前にある足湯です。営業時間は朝7時～夜9時で、入浴料は無料、気軽に天然温泉を楽しむことができます。2つめは青森市から浅虫に向かって東バイパス国道4号線を走り、左手にある小巾亭を過ぎたところを左に入っていくとある青森直売所ふるさと「あ・こっからだ」です。営業時間は朝8時～夜7時。ゲルマニウム含有鉱石が敷き詰められた足湯がある他、青森の様々な物産店舗が集められ、お腹も満たすことができます。ドライブがてら、海山へ出かけた帰りにでも、ほっこりしてみたいかですか。

(学生記者 柳谷 優衣)

突撃! 教えて! 先生 その3

第3回目は、青森中央学院大学寺井里沙先生です。大学生生活で努力したことを教えてください。

「努力したこと」より「努力しなかったこと」の方が強く印象に残っています。大学生生活で努力しなかったつければ、大学卒業後にまわってくるということを大学生の自分に教えたいですね。学生時代で1番印象に残っていることを教えてください。

色々な先生方との出会い。特に、ゼミを担当して下さった教授と英語の授業を担当して下さったアメリカ国籍の教授には、大学院も含め7年間もお世話になるとは思いませんでした。今の私があるのも、その先生方のおかげだと思います。

幼いころの将来の夢を教えてください。

野生動物を保護する人、外交官、秘書、と中学生の頃まで、将来の夢がころころ変わっていました。大学の先生という選択肢は大学に入るまで考えたことはありませんでした。

学生に何か一言お願いします。

いつでも研究室に遊びに来てください。会社法の話でもしましょう(笑)。

(学生記者 柳谷 優衣)



♪トレンドキャッチャー♪ Lv.3

夏の節電対策を紹介する。昨年と違い、日本中の原子力発電所が停止しており、一層の努力が必要とされる。そんな中、楽にできることや、少し注意しなければいけないことを紹介する。

①設定等の再確認 クーラーの設定温度は高ければ良いわけではない。湿度との関係を確認し、最適な温度を自分で見つけることも重要だ。また、最近の家電製品は、節電機能の付いているものも多い。無駄にしておくのはもったいない。

②節電グッズ紹介 I. ソーラー充電器: 震災後は被災地に優先して送られていたので品薄状態だったが、今年は種類も充実。出かける前に日向に置いておくだけで、夜フル充電も可能。比較的安価で軽量なのもうれしい。II. 氷うちわ: 水につけて使ううちわは昔からあったが、このうちわはさらに凍らせて使う。涼しさは倍増。その上、軸内にアロマパットが内蔵されているため、好きな香りの涼風が楽しめる。

自分に合った方法を見つけ、無理せず、継続することが大切である。

(学生記者 木村 翔太)



青森中央短期大学

開花式

8月2日、看護学科の第6回開花式が行われた。今年度のテーマは「自分の理想の看護師像」。参加する看護学科2年の学生たちは手作りの開花式を目指し、前期試験や実習準備などで忙しい勉学の合間を縫って、何度も話し合いを重ねた。式の内容や構成、BGMなど、すべて学生たち自身で準備し、2年生全員の顔写真とそれぞれが目指す看護師像を紹介するパワーポイントを作成した。当日披露されたパワーポイントは、これからの看護人生に向けた希望と抱負に満ちたもので、出席した教職員の間に感動を呼び起こした。2年生はこの開花式を経て、実習に取り組んでいる。



手作りの開花式をめざして

看護学科2年 内條 里美

開花式は記念となる行事です。今年は皆が楽しめる、私たちのクラスらしい式にしようと考えました。そこで皆の顔写真を撮影し、一人ひとりの理想の看護師像を映したスライドを作ることに決めました。最初、私たちのクラスには、開花式をやらなくてもよいのではと考えていた人もいましたが、開催を決めた後は、全員一致の協力体制を作りました。その結果、自分たちなりの素敵な開花式にすることができたと思います。これからも、勉強や実習を通して、日々成長し、自分達のめざす看護師に近づいていけたらいいなと思います。私達はまだまだ看護士の卵ですが、いつか立派な花を咲かせたいと思います。



創立記念運動会

6月2日に創立記念行事である運動会を開催しました。玉入れ、綱引き、二人三脚、障害物競走、バレーボールの5つの競技で熱い戦いが繰り広げられました。運動会を熱く盛り上げようと、企画の段階から各学科の担当者が意見を出し、話し合いました。連携がとれて団結することができ、充実した運動会になったと思います。

クラス一丸となって、勝利のために汗を流したことは最高の思い出になるし、運動会で深めた絆は、今後の学生生活で必ず役に立つと思います。

9月に開催される翔麗祭も、さらに多くの思い出を作り、学生全員が心から楽しかったと思える翔麗祭にしたいと考えています。

(学友会会長 古川 亮哉)



リメディアル講座

リメディアル講座は、大学の授業の補習を目的にしたものである。苦手な分野のある学生が、高校での学びの復習を兼ねて、安心して大学の授業について行けるようにとの趣旨で企画されている。できるだけ身近な内容から入るように工夫されており、基本問題の反復学習により、基礎力の向上を目指している。

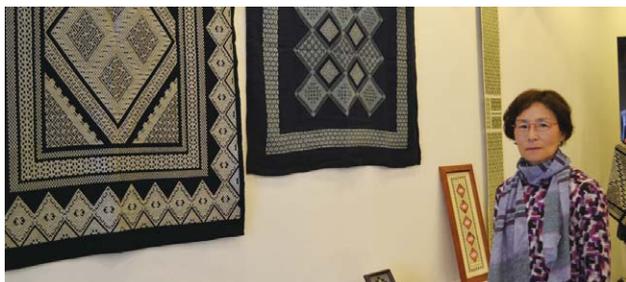
この講座は、空き時間や放課後を利用した開講で、大学の授業に支障なく、気軽に参加できるよう、工夫されている。また、少人数クラスで、授業は受講者の理解度に合わせて進められ、質問もしやすい雰囲気になっている。出席している学生たちは、真剣に取り組む専門科目の理解を一層深めている。



青森中央短期大学卒業生による「こぎん刺し」展示

サテライトキャンパス・FRIENDLY WINDOWで、4月16日~28日まで、青森中央短期大学第1期卒業生 木野洋子さん（十和田市在住）による「こぎん刺し」作品の展示を行った。

木野さんが今までに作成した様々な作品に、同窓生や、青森中央文化専門学校生など多くの来場者が訪れて作品に魅了された。なお、展示品の一部は希望者に販売され、販売金はNPO法人アースインデンティティプロジェクトを通じて東日本大震災復興支援として寄付された。好評につき、FRIENDLY WINDOWでは10月、11月、12月の第3月曜日、木野さん講師によるこぎん刺し講座を実施する予定である。



食育フェスタ

6月30日、「食育フェスタ」が開催された。これは、本学青森食育サポーター事務局主催によるもので、学校関係者や食育サポーターなど、約50名の参加があった。

今回のフェスタでは、事前に希望が多かった「ブラックライトを使用した手洗い指導」の実践を行った。ブラックライトを使用すると、目には見えにくい洗い残し部分がわかりやすい。参加者は日頃の手洗い方法を改善するべく、熱心に取り組んでいた。また、調理関連内容として、飾り切りのデモンストレーションも行われた。家庭で簡単にできるものから、高度な技術を要するものまで様々披露され、参加者の関心を集めていた。

「食育フェスタ」は、さらに内容の充実を図り、来年度も開催予定である。



JFA公認キッズリーダー養成講習会

9月22日・23日、日本サッカー協会公認資格である「キッズリーダー」養成講習会が本学で実施された。これはボールを使って子どもに体を動かす楽しさを伝えて、心身を健全に育成する方法を学ぶものである。この資格を取得した幼児保育学科の学生は、地域の障がい児を対象としたサッカークラブなどで受講経験を生かした活動をしている。写真は7月に市内で開催された10歳以下の子ども対象のサッカー教室にボランティアで参加した時の様子である。

最近では青森県内でもサッカーを取り入れる保育園や幼稚園が増えてきている。この経験が就職先でも生かされることが期待される。



「しっとりもちり東青の米粉スイーツ創出事業」への取組

H23~24年度、東青地域県民局地域農林水産部と青森中央短期大学および市内の調理科を有する2高等学校が、東青の農産物と米粉を組み合わせたスイーツの開発を委託された。昨年度は学生2名が参加。米粉ならではの食感、風味を考慮した開発を心掛けた。商品の発表会は1月下旬。学生が商品の特徴などをプレゼンした後、試食が行われた。商品は「米粉の和風ティラミス」2種、「ソルトクラッカー」、「もちもちアップルドーナツ」。農産物としてりんご、カシス、長芋を使用した他、豆腐や酒粕なども使用した。食材や食感が意外で、完成度が高いとの好評価を頂いた。今年度は、コンビニ等での2月の販売を視野に入れた開発が課題となっている。商品の発表は10月下旬。現在、開発にあたっている食物栄養学科の学生は、忙しい日々を過ごしている。



先生の自分史「人生何がおこるかわからない」

看護学科 藤澤 珠織先生



若い頃、どうしても「大学」というものに行ってみたかった。社会人になってから数年後、受験勉強を再開し、やっと受かった大学は関西にあった。私の出身地である北海道の民は得てして札幌が世界の中心。まさか津軽海峡を越え、東京すらとび越えて関西の地に住まうとは。そして今、元々はゆかりの無かった青森の地に、縁を結んで根をおろそうとしている。院も合わせると10年以上、大学に籍を置いたキャンパスライフ好き。それが高じて(!?)大学教員になろうとは、将来を夢見た高校生の頃ですら、一度も夢しなかった。本当に、人生どこでどうなるか、先のことはわからない。でもこれまでの半生、幸せも厳しさも織り交ぜて、すべてが今の私を創っている。何が起ころうとも無駄な経験は一つもないから、何が起ころうとも前向きに、としみじみ思う、今日この頃。

読んで欲しいこの1冊

食物栄養学科 宮田 篤先生『お菓子放浪記』

西村 滋著(理論社、1976初版、1994新装初版、2005講談社文庫初版)

読書感想の課題図書でご存じの方も多いでしょうが、もし、まだ読んでない方がいらっしやったらぜひ、と思ひまして。

昭和16年、東京下町。孤児院から脱走を繰り返していた13歳の主人公シゲルは、身寄りもなく、やがて感化院に収容されてしまいます。

感化院での虐待。引き取られた里親から受ける搾取と裏切り。旅芸人一座との放浪。それでもシゲルは感化院で富永先生(美人!)から教わった歌、「お菓子と娘」を口ずさみ、先生からもらった「お菓子の作り方」の本を胸に、お菓子作りを夢見ます。しかし戦争は一段と激化。富永先生は広島に嫁ぐことになり…。

富永先生の「今の世の中に美しいお菓子がないのなら、キミがそのお菓子になるの。」という言葉が心に残ります。無くても死にはしないけれど、人として生きるために必要なものって、必ずありますよね。

研究室を訪ねて

vol.4

～田中栄利子研究室～

田中研究室では、先生をはじめ個性的な人物が揃っています。いつも誰かが話し出すと話が止まらず、長時間話し込んでしまうほど仲が良いです。

田中先生は常に私たちのことを考えてくれて、勉強や研究、私生活などの悩みにも、親身になって相談にのってくれます。時には『厳しく』指導してくれて、私達の『やる気』を引き出してくださいます。そんな先生のいる研究室には、いつの間にかゼミの学生たちが集まってきました。

楽しさもありかつ勉強・研究に没頭できる環境が整っている研究室です。皆さんも一度【765研究室】の扉を開けてみませんか？

(看護学科3年 諏訪 瑠美)



卒業生も活躍しています

幼児保育学科39期生 千葉 粹里さん

社会福祉法人コピーソシオ

コピープリスクールよしかわステーション勤務

私は、社会福祉法人コピーソシオが運営する埼玉県内の保育園に勤務しております。

子どもたちを感動させ、自分自身も感動する保育を目指すコピーの保育にはとてもやりがいを感じ、充実した日々を送っています。

子どもたちは新しいことを日々発見しながら学び、育っています。子どもたちの目は生き生きと輝き、その目を見ると私も元気をもらい、愛する子どもたちのためにと頑張っています。皆さんも夢に向かって頑張ってください。

明日も私は、子どもたちの新たな発見を楽しみに仕事に向かいます。



キャンパス再発見～三思園～ Vol.3

今回紹介する場所は、1号館の目の前にある水車です。学内を移動中に目にする人も多いかと思えます。この水車のある場所には、「三思園」という名前があります。中に入ると、一年を通して四季折々の自然の姿を感じることができます。水車の周りには池もあります。実際、中に入って友達と会話をしている学生も見られます。水車の周りには木がたくさん植えられて、ベンチもあります。静かで落ち着いており、ゆったりとした時間の流れを感じることができ、日本庭園のような雰囲気になっています。ここで水車の音を聴きながら、日頃の疲れを癒すのも悪くないと思います。また友達と一緒にベンチに座りながら昼食をとるのもいいと思いますよ。普段見落としがちな場所かもしれませんが、大学の敷地内に水車があるのはとてもオシャレだと思います。時間があるときにでも足を運んでみてください。(学生記者 野宮 健太)



1人暮らしのレシピ Vol.3

学生の中には一人暮らしをしている人も多いと思います。学校の課題やバイトなどで忙しい人でも簡単においしく作れるレシピを紹介します。今回は、もやしときゅうりのさっぱり和えです。

材料(2人分)は、もやし(一袋)、きゅうり(一本)、本だし(お好みで)、こしょう(少々)、ゴマ油(大さじ2)、白いりゴマ(お好みで)です。作り方は、以下の通りです。

①きゅうりは千切りにする。もやしはひげ根を取り、さっと湯がいて、ザルにあげて水気をきる。②もやしときゅうりを本だし、こしょう、ゴマ油、ゴマで和えて完成です。

もやしときゅうりの下ごしらえをして調味料で和えるだけなので、簡単に作れます。また、さっぱりした味付けなので、夏バテの人にもピッタリです。

(学生記者
高谷 いずみ)



謎に包まれる寮生の生活 Vol.3

前回ご紹介した学术交流会館の横にそびえ立つ、筒状の建物をご存じでしょうか?今回ご紹介するのは「国際交流会館」です。ここでは、各国からの留学生が多く生活しています。部屋は全て1Kのため、自由な時間を持つことができます。部屋には学术交流会館同様キッチンが設置されているため、自炊が可能です。希望者はカフェテリアで朝食と夕食を食べることができます。

この会館では、寮生が日常的に留学生と交流しているので、さまざまな国の友達ができ、いろいろな国の言葉や習慣に触れることができます。

寮にはいつでも管理人さんがいてくれるので、寮生活も安心です。

国際交流会館は、実は真ん中が螺旋階段になっていてドーナツ型です。一度のぞいてみてください。

(学生記者 栗谷 絵梨)



考シリーズ～ノート考～ Vol.3

今回は、学生たちの勉強道具の一つ、ノートやルーズリーフについて考えます。

学生40人に「授業を受ける時はノート派かルーズリーフ派か?」とアンケートを取ってみました。その結果32人がルーズリーフ派で、4人がノート派、残りの4人がどちらも使うとの答がでました。つまりルーズリーフ派が80%、ノート派、どちらも使う派が共に10%となります。

ルーズリーフ支持派の理由としては、バインダーに閉じることができるから、という意見が多くありました。講義では内容が飛んだりもすることもあるため、ルーズリーフはバインダーに挟む場所が自在にできるので、学生たちに支持されるのかもしれませんが。それに対してノート支持派は、昔から慣れ親しんでいるからという理由があげられていました。どちらも長短いろいろです。自分のスタイルに合わせて選んでいきたいですね。

(学生記者 田中 千香子)



附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

楽しかったね合宿保育

7月19・20日、大学の体育館と第一幼稚園を会場にして、年長さんの合宿保育が行われました。各園から集まった園児は160名。8つのグループに分かれてゲームをしたり、扇ねぶたの色付けをしたり、おふとんを敷いたりとお友達と協力してよくがんばりました。みんなで食べたカレーライス、三思園の皆さんも参加しての花火大会、盆踊り、夜空に揺れる「牛若丸と弁慶」のねぶたなど、お友達と一緒にのお泊り体験は、忘れられない思い出になったことでしょう。おうちを離れて一泊した年長さんは、ぐんとたくましくなって園に帰りました。

— ともだちひやくにんのできるかな —



沿道から拍手いっぱい!! 幼稚園ねぶた出陣

ラッセラーラッセラー、園児のかわいい声が夜空に響き、祭りも最高潮!!



先生達活躍しています 第7回

「子どもと共に」



附属第二幼稚園

渡邊 ちひろ先生

幼稚園教諭となって、今年で2年目、第一幼稚園から第二幼稚園に異動し3ヶ月が経ちました。毎日楽しい日々を過ごしています。昨年度に続き、今年度も年少組の担任となりました。初めての主担任ということでドキドキしながらも、子ども達と一緒に楽しみ、共感しながらやっています。年少さんは、4・5月の間、親元を離れ他のお友達や先生達と過ごすので、不安もあり寂しがらる姿も見られましたが、日を追うごとに明るく自分らしさを発揮するようになり、子ども達のたくましさを感じられています。私はまだまだ駆け出しですが、子どもに寄り添い、耳を傾け「健康で明るく心豊かな子ども」になるよう支援していきたいです。子ども達の成長を見守りながら、私自身も日々成長していけるよう、指導技術の向上を目指します。

「笑顔を励みに」



中央文化保育園

對馬 彩花先生

中央文化保育園に勤務し、2年目になりました。毎日楽しい日々を送っています。今年は4歳児の担任になり、明るくてエネルギー溢れる活発な子ども達に囲まれ、日々学ぶこと、気付かされることの連続です。

保育活動では、子ども達の疑問や興味・関心を広げられるよう心掛けています。進級当初はまだあどけなさが残っていた子ども達も、今では年下の子にやさしく教えてあげたり、進んでお手伝いをしてくれる、頼もしい姿が見られるようになりました。時には辛いことや悩むこともあります。子ども達の笑顔が励みになり、頑張ろうという気になります。これからも子ども達の想いや気付きを大切に、共感しながら、一緒に成長していきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

附属第二幼稚園 相馬 由香里先生『どうぞのいす』
香山 美子 作 / 柿本 幸造 絵 (ひさかたチャイルド, 1981)

うさぎさんが小さいいすを作り、「どうぞのいす」と書いた立て札と共に野原の木の下に置いていきます。そこへやって来たろばさんは、持っていたどんぐりの入ったカゴをいすへ置き、木の下で昼寝をしまいます。次々に動物がやって来ては、立て札を見て、いすの上の食べ物を食べ、「空っぽにしては後の人にお気の毒」と、自分の持っている物をいすへ置いていきます。次はどんな動物が来て、何を置いていくのかワクワクしながら読んでいくと、最後は昼寝から起きたろばさんが、どんぐりがくり



に変わっていて驚き、喜びます。「どうぞ」は相手のことを考えた優しい心の合い言葉。絵本を通して、思いやりや優しさを育てていけたら嬉しいです。

卒園児頑張っています

附属第一幼稚園卒園 甲谷 萌子さん



横内中学校の1年生です。年長からそろばんを習い、今年で9年目になります。英語も4年間バーニ先生に教えていただきました。中学校での得意科目は数学と英語です。幼少期から数学、英語に慣れ親しんでいたため、すんなりと耳に入ります。部活動は、幼稚園の時から絵を書くのが好きだったので、美術部に入部しました。

「MOA美術館児童作品展」絵画の部銅賞、「棟方志功板画展」金賞、「青森市学校図書館読書感想文コンクール」第4回優秀賞・第6回優良賞、「国民読書年記念事業図書館を使った調べ学習コンクール」小学生の部最優秀賞、小学校6年間皆勤賞等をいただけたのは、幼稚園先生方のご指導のおかげです。

在園児の皆さん、ご飯をもりもり食べて、元気に遊んで、たくさん先生に本を読んでもらって、楽しく作品を作り、思いっきり絵を描いて、そろばん、英語、水泳にどんどんチャレンジしてくださいね。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

医療事務コース講話聴講

青森中央経理専門学校医療事務コースは7月31日、青森市民ホールにてハンセン病に関する『親と子のシンポジウム』を聴講した。第1部はハンセン病に関する基調講演、第2部は青森市内の中学生4名をパネリストに迎えたパネルディスカッション、青森市内の小学生による合唱、ハンセン病に関する啓発ビデオの上映が行われた。

医療事務を志す学生にとって、親子で共に考えていくこのシンポジウムへの参加は、知識習得とハンセン病に対する理解に繋がっただけでなく、共に生きる社会を個々に考えるきっかけとなった。また、パネルディスカッションの場面では、パネリストの経験に基づく意見や考えを聞き、出席した学生からは、「ハンセン病のように、周囲に無知からくる誤解を招いてきた病気を正しく理解するのも、私達医療事務コースのできることはないか。」と病に対する偏見や差別の解消に共感し、改めて命の大切さを実感した。

経理事務金融学習会

6月21日、経理事務コースは金融広報アドバイザーの菅原伊佐雄氏を講師に招いて、金融学習会を開催した。

生きていく中で実現したい夢や目標は人それぞれであるが、限りある時間やお金、様々な制約を考えながら人生の設計図「私のライフプラン表」を作成した。いつ、どんなことを、いくらの予算で実現したいのか、また、各自の夢の予算等を表に入力することで、夢の実現を一目で理解でき、お金を貯めるモチベーションがアップしたようである。また、目的がはっきりすることで将来の具体的な貯蓄プランの見通しにも繋がった。



文化公開講座

青森中央文化専門学校では、7月21日と8月18日、公開講座を開催した。7月21日は、ポケットティッシュのボックスカバーに紙粘土のキャラクターやリボンなどでデコレーションをする「親子で作るティッシュペーパーカバー」、8月18日は「夏休み自由研究 ファッション サマースクール」と題して、幼児・小学生を対象とした、手持ちのバッグやTシャツにステンシルペイントをして、オリジナルグッズの作成をした。

両日とも夏休みを利用し、自由研究や夏の思い出作りを楽しむ親子連れの参加者が、オリジナル溢れる作品を楽しみながら作成した。



期間限定ショップ OPEN

青森中央文化専門学校は8月20日～9月1日まで、新町のFRIENDLY WINDOWで期間限定ショップ『Enchante』をオープンした。

企画・運営・レイアウトに至るまで、全て学生の手で作る期間限定ショップのオープンは今回で2回目。前は手作りアクセサリー、コサージュなどの販売だったが、今回は古着ショップをイメージし、学生が持ち寄った古着を販売した。新たなファッションを作り出す学生がセレクトした商品は来店客の注目を集めた。授業で学んだ着こなしのポイントやカラーコーディネートなどを活用したアドバイスをし、夢への大きな経験を積んだ。



経理発信情報 Vol.6

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校では、既存の6つのサークルに加え、今年度新たに4つのサークルが設立されました。

その中の1つ「写真サークル」は、1・2年生合わせた部員16名が専門学校専属の学生カメラマンとして活動しています。主に学校行事に参加し、みんなで楽しんでいる様子の撮影、季節のテーマに沿った風景の撮影、「カワイイ」と思ったものを撮影し、素敵な作品は学術交流会館3階の廊下に掲示しています。皆さん、見に来て下さい。「こぶしの花」の表紙に選ばれるように頑張っている活動していきます。

(写真サークル部長 佐々木 愛梨)



(撮影：写真サークル 船橋 瑞稀)

おすすめ図書 vol.5

青森中央文化専門学校 **牧野 晴子先生**
『史上最強カラー図解 色彩心理のすべてがわかる本』
山脇 恵子著 (ナツメ社, 2010)

私たちの世界はすべて「色」によって彩られています。色を使って心と体を元気にするヒントが満載な本書は、絵画の色彩の美しさを楽しんだり、日本特有の古くから愛されている色にも感動したりできる一冊です。

色彩心理の基礎からセルフセラピーへの応用まで幅広く扱っており、なぜその色がそのイメージを表すのかという説明も詳しく書かれています。自分がどんなイメージを持っているのか、今の自分を知り、何を求めているのかを知るきっかけを与えてくれるなど、深層心理を読めてとても面白いです。

色は人の心理にさまざまな影響を与えます。興味がある部分をピックアップして読み、色を日常の癒しとして使えるようになりたいですね。

今のあなたの気分は何色ですか？

ファッション通信 vol.5

【2012秋 nature～民族テイストを取り入れよう～】

今季のコーディネートポイントは、多色使いの民族柄が際立つキレイめのカジュアルルック。

小物は羽モチーフやハットなどでアクセントをつけるとオリジナリティーアップ！

色はナチュラルなブラウン系で穏やかにまとめる配色と、そこに少し意外性のあるブルーやレッドの差し色を加える配色にすると、民族的ムードをフレッシュに演出できます。



(本文・デザイン画：文化編集部サークル)

卒業生ピックアップ No.18

青森中央経理専門学校 平成23年度卒業
青森市役所勤務 **澤田 翼さん**

青森中央経理専門学校経理事務コースを卒業して半年が過ぎます。在学中は資格取得、サークル活動、インターンシップ、職場研修、学生チュータ等、自己レベルアップを目指して活動しました。

現在、私は青森市役所に勤務しています。関連する法律、規則、事業などを把握することは難しいけれど、毎日充実しています。新社会人として心がけていることは、「仕事に慣れる」、「人に聞く前に自分で調べる」、「笑顔で明るく積極的に挨拶をする」の3つです。在校生の皆さん、これらのことが当たり前できるように、学生生活を過ごしてください。そして、普段からのいろいろなことを活用して、社会人としての人生を歩んでください。



翔麗祭 テーマ: Alive

9月15日(土)16日(日)開催



後期開催行事案内

青森中央学院大学サテライトキャンパス FRIENDLY WINDOW

オープン時間 11:30~19:00 開館日 月・火・木・金・土(祝日を除く)

●青森中央文化専門学校公開講座

日程	内容	対象
11月19日(月) 13:00~15:00	こぎん刺しの基礎と応用②	一般
12月17日(月) 13:00~15:00	こぎん刺しの基礎と応用③	一般
1月21日(月) 13:00~15:00	和紙で作るミニミニお雛様①	一般
2月18日(月) 13:00~15:00	和紙で作るミニミニお雛様②	一般
3月18日(月) 13:00~15:00	ワンポイントソーイング	一般

●FRIENDLY WINDOW 市民セミナー 「女性が語る青森」 時間:13:30~15:00(最終回のみ18:30~20:00)

日程	内容	講師
11月 2日(金)	江戸時代青森町の女性をめぐって	京都橘大学講師 真島 芳恵 氏
11月17日(土)	青森の女性たち~私的に素敵の取材を通して~	フリーライター 清水 典子 氏
11月30日(金)	観桜会の誕生~慰霊の場から娯楽の場へ~	青森県史調査研究員 中園 美穂 氏
12月14日(金)	人骨講座~発掘人骨から現代人の病まで	青森中央短期大学専任講師 藤澤 珠織
12月21日(金)	明治期、青森に響いた讃美歌の音	青森中央短期大学教授 北原 かな子

青森中央学院大学・青森中央学院大学大学院

●公開連続講座 「わが郷土の歴史・産業・文化等について学ぶ」 時間:13:00~14:20 会場:学術交流会館

日程	テーマ	講師
10月24日(水)	大間まぐろの今とまちづくり	宮野製パン株式会社専務取締役 宮野 成厚 氏
10月31日(水)	青森県の文学④「燃ゆるが如き~佐藤紅緑の少年少女小説~」	青森県近代文学館室長 飛内 文代 氏
11月 7日(水)	青森県の美術館④「八戸市美術館の魅力」	八戸市美術館館長 山田 泰子 氏
11月14日(水)	青森県とエネルギー②「日本のエネルギーを考える」	日本原燃株式会社社長 川井 吉彦 氏
11月21日(水)	青森県とエネルギー③「一市民の目から見た再生可能エネルギーの可能性と今後の課題」	特定非営利活動法人グリーンシティ理事長 富岡 敏夫 氏
11月28日(水)	災害とラジオ~見直されるラジオの役割~	RAB 青森放送株式会社常務取締役ラジオ局長 大友 寿郎 氏
12月 5日(水)	~三内丸山遺跡・世界文化遺産と登録を目指して・特別講演~ 世界を目指すJOMON-縄文遺跡群の世界遺産登録を目指して-	青森県教育庁文化財保護課課長 岡田 康博 氏

●あおもりツーリズム創発塾 in 青森中央学院大学

日程	テーマ	講師
11月18日(日) 13:30~15:00	スポーツを活かした地域の人材養成	江戸川大学教授 北原憲彦 氏

●地域マネジメント研究所 ビジネスセミナー

日程	テーマ	講師	会場
12月 3日(月)	新幹線物流(仮)	元JR九州社長 石井 幸孝 氏 久留米大学教授 大矢野 栄次 氏	青森中央学院大学
12月15日(土)	ブラジル日系移民と青森(仮)	サンパウロ大学教授 二宮 正人 氏	青森県水産ビル8階

青森中央短期大学

●SESSIONS ON THE ARTS 2012/響感アート交流地点 陸上自衛隊第9音楽隊コンサート

日程	出演	会場
12月22日(土) 14:00(開場13:30)	陸上自衛隊第9音楽隊	青森市民ホール

青森中央学院大学同窓会のご案内

■日程:2012年11月17日(土)18:00~ 総会・懇親会
■会場:青森国際ホテル

青森中央短期大学第2期生の会のご案内

■日程:2012年10月27日(土)18:00~
■会場:青森グランドホテル

学生公演

①青森中央短期大学幼児保育学科 卒業記念公演ミュージカル『ピノキオ』
②青森中央文化専門学校 Bunka Fashion Live2012『彩虹TIC』
■日程:2012年12月15日(土) 第1回公演13:00~/第2回公演15:30
■会場:フェスティバルシティアウガ5階

青森中央経理専門学校

●青森中央経理専門学校公開講座

日程	内容	対象
11月10日(土) 10:00~12:00	学生によるパソコン教室 年賀状作成	一般

認定こども園附属第一幼稚園・第三幼稚園 附属第二幼稚園

●幼稚園平成25年入園願書受付 11月1日(木)より各園にて随時受付



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、2月発行予定の86号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■86号応募締め切り：11月30日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

学校法人青森田中学園 情報公表

学校法人青森田中学園では、情報の公表を行っております。

最新の情報の公表は、ホームページ上にて掲載しておりますので、どうぞご覧下さい。

■ホームページ … <http://www.aomoricgu.ac.jp/gakuen/index.html>

青森田中学園報「こぶしの花」第85号

発行日：2012. 10. 25

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長

加藤 澄
北原かな子
坪谷 輝子
八木橋ひろみ
中田 尋美

佐藤 紋子
赤坂 敦子
高橋 晴美

学生記者

太田 諭志
柳谷 優衣
栗谷 絵梨
木村 翔太
高谷いずみ
野宮 健太
佐藤 祐貴
田中千香子